

## 第2章

### 発達段階に応じたキャリア教育の充実

## テーマ4 「職場体験活動・インターンシップ等の推進」

### 背景(課題)

子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の一員としての自分の役割を果たしていくために必要となる、人間関係を築き上げていく力や、課題を発見し解決していく力などのさまざまな能力は、子どもたちの成長過程と深く関わりながら発達していくため、小・中学校、高等学校等の学校段階ごとの取組を考え、それらを系統立ててつながりのあるものとしていくことが大切である。

そのため、県教育委員会では、学校段階ごとにさまざまなキャリア教育に関する事業を系統的に展開し、子どもたちの社会的・職業的自立に向けた諸能力と望ましい勤労観・職業観を育てているところである。

また、私立学校においても、多様な事業所におけるインターンシップの実施や、幼稚園での保育実習等、充実したキャリア教育が実施されている。

### 関連する施策の実施状況

#### ・ 小学校における取組～「地域に学び・語り継ぐ キャリア教育」推進事業

高学年児童が、地域の講師に学ぶ体験活動や講話を通して深めた「考え」を、下級生に「語り継ぐ場」をもつことで、各学年の発達段階に応じ、全校が「生き方や働くこと」について考える取組を18市町村各1校で実施した。

#### ・ 中学校における取組～「あいち・出会いと体験の道場」推進事業

子どもたちが将来の生き方について真剣に考え、働くことや学ぶことへの意欲を高めるため、全公立中学校（名古屋市を除く）307校で5日間程度の職場体験学習を実施した。

#### ・ 高等学校における取組

全ての県立高等学校（全日制）で、インターンシップやジョブシャドウイング等の体験活動を充実させた。

専門高校等では、産業界や上級学校で活躍するプロフェッショナルを招へいし、各教科の専門分野における知識・技能について指導を受けた。

工業高校では、工業高校生の技術・技能の習得を図るため、ものづくりに関心の高い生徒を対象に、高度で実践的な技術・技能を身に付ける10日間程度の企業実習を実施した（図表1）。

【図表1：高等学校におけるインターンシップ等の体験者数の推移】

年 度	24年度	25年度	26年度
生徒数	117,351人	117,716人	120,198人
体験者数	9,982人	10,899人	11,286人
体験者の割合	8.5%	9.3%	9.4%

### ・特別支援学校における取組

小学部を対象とした職場見学、中学部を対象とした就労体験活動、高等部を対象とした現場実習をそれぞれ実施した（図表2）。

【図表2：特別支援学校におけるキャリア教育推進事業の実施状況（H26年度）】

部	事業名	実施校数	実施人数
小学部	ふれあい発見推進事業	23校	263人
中学部	チャレンジ体験推進事業	23校	245人
高等部	県立学校職場実習	18校	227人
全体	地域就労支援ネットワーク	28校	

### 取組の成果

- ・ 小学校の事業では、子どもたちが体験活動や講話を聞くことにより、働くことの苦勞や大切さを感じ取ることができた（図表3）。

【図表3：地域に学び・語り継ぐ キャリア教育推進事業アンケート結果】

アンケート内容	そう思う	おおむね そう思う	あまり思 わない	思わない
（児童）働くことの苦勞や大切さを学べた。	77.4%	20.0%	2.1%	0.5%
（講師）体験活動や講話を聞くことは、働くことへの意欲を高めたり、大切さを学んだりするのに有効であったか。	89.8%	10.2%	0.0%	0.0%
（講師）子どもたちは、意欲的に取り組んでいたか。	89.7%	9.4%	0.9%	0.0%

- ・ 中学校の職場体験学習では、前年度の課題を踏まえ、活動の意義等を生徒に十分に伝えるなど、事前・事後の指導の充実に努めた結果、前年度以上に有意義な活動ができた（図表4）。

【図表4：あいち・出会いと体験の道場推進事業アンケート結果 上段H26、下段H25】

アンケート内容	そう思う	おおむね そう思う	あまり思 わない	思わない
（児童）働いている人の苦勞や働くことの大切さを学べた。	73.8%	23.2%	2.6%	0.4%
	72.5%	23.7%	3.3%	0.5%
（講師）職場体験活動は、子どもの働く意欲を高めたり、大切さを学んだりするのに有効であったか。	58.3%	36.5%	4.5%	0.7%
	56.7%	37.1%	5.3%	0.9%

- ・ 高等学校におけるインターンシップ等については、体験した生徒数が年々増加している。
- ・ 特別支援学校では、発達段階に応じたキャリア教育が行われており、実施した学校からは有意義な活動であったことが報告されている。

## 課 題

- 小・中学校では、子どもたちの発達段階に合わせて、系統的にキャリア教育を進めていくためには、学校の全教育活動との関連を図り、キャリア教育を適切に位置付けた指導計画を作成し、これに基づき計画的に実施していく必要がある。

平成26年度は、年間指導計画の作成を働きかけてきた結果、小・中学校ともに作成率が向上した。さらに、小・中学校ともに100%となるよう、継続して年間指導計画の作成を学校に働きかけていく必要がある（図表5）。

【図表5：キャリア教育に関する年間指導計画を作成している学校の割合】

年 度	24年度	25年度	26年度
小 学 校	48.6%	54.2%	81.7%
中 学 校	81.3%	78.3%	98.6%

- 高等学校では、発達段階を踏まえたキャリア教育の充実を図る手段として、本県独自に作成したキャリア教育ノートの活用促進が課題となっている。

本ノートは一人一人が学んだことや自分自身の成長を記録し、未来を創造していき、夢をかなえる一助となっている。このノートを活用した学校数は平成24年度から平成25年度に増加したが、平成26年度に減少傾向がみられた。キャリア教育を推進するために県内各地域（14地域）で開催している地域推進会議において、積極的な活用の周知が必要である。（図表6）。

- 特別支援学校の高等部卒業生の就職率は、平成26年度は36.7%と、依然として40%を下回る状況であった（図表7）。就職率の向上を図るためには、現在活用が不十分である「キャリア教育ノート」（活用率22校・73%）（図表6）及び「あいち夢はぐくみサポーター」制度（活用率7校25%）の活用を図り、学校でのキャリア教育を一層推進していくとともに、これまでの製造業を中心とした職場開拓だけでなく、幅広い業種での職場の開拓を図っていく必要がある。

【図表6：キャリア教育ノートの活用状況】

年 度		24年度	25年度	26年度
活 用 校 数	全日制高校	33校 (22.3%)	81校 (55.8%)	78校 (53.4%)
	特別支援学校	11校 (37.9%)	20校 (69.0%)	22校 (73.3%)

【図表7：特別支援学校高等部卒業生の就職率】

年 度	24年度	25年度	26年度
就 職 率	39.6%	38.1%	36.7%

あいち夢はぐくみサポーター制度：県内の公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるキャリア教育を推進するため、児童生徒の教育活動を支援する県内の事業所や団体を認証・登録するとともに、事業所等の社会貢献活動を広報する取組。平成27年3月時点で1,241事業所登録。

### 今後の方向性

#### 短期的に取り組むこと

- ・ 小・中学校とともに、全校でキャリア教育の年間指導計画の作成・充実に努め、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導を進める。
- ・ 「キャリア教育ノート」の活用を促したり、キャリア教育の核となる体験活動の事前・事後の指導を充実させたりして、キャリア教育の一層の推進に努める。
- ・ 高等学校では、キャリア教育の取組がまだ十分ではない普通科における体験活動の取組を強化するため、受入れ事業所の負担が比較的軽いジョブシャドウイングの取組を推進するとともに、多様な業種の事業所が登録され、活動内容も多岐にわたる「あいち夢はぐくみサポーター」制度の活用を促していく。
- ・ 専門高校生が広い視野に立ってグローバル化に対応していくため、東南アジアに進出している企業において、夏季休業中に5日間の海外インターンシップを実施する。
- ・ 特別支援学校における就労支援に専門的に取り組む「就労アドバイザー」を、平成27年度から高等特別支援学校2校を拠点として1名ずつ配置し、関係機関との連携をさらに深めながら、実習先の拡大や就職率の向上を目指す。

#### 長期的に取り組むこと

- ・ 小・中・高等学校等が、子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を効果的に展開していくために、地域や産業界、関係機関との連携を深め、子どもたちへの指導を円滑に支援できる体制を構築する。
- ・ 高等学校の専門学科において、より高度な技術、技能に触れ、現在の学びを将来の職業につなげるため、10日間程度の比較的長期のインターンシップの実施を検討する。
- ・ 特別支援学校では、学識経験者、企業関係者、労働部局関係者、福祉部局関係者、学校関係者等を委員とする「キャリア教育・就労支援推進委員会」を開催し、就職先の開拓、職域の拡大、就職先への定着支援を、関係機関が連携を取りながら効果的に進めていくことができる、新たな就労支援システムの構築を図る。

(関係課室：高等学校教育課、義務教育課、特別支援教育課)

～ 私立中学校・高等学校における職場体験活動・インターンシップの取組事例から～

職場体験(中学校): 中学校2年、土曜講座で「職業体験」をテーマに開催。  
講演会・調べ学習・職場体験・成果発表を実施

職場体験(高校): 夏休みに希望者が看護体験・私立幼稚園体験を実施  
【愛知高等学校・中学校】

職場体験: 11月、中学3年生120名、各事業所で2日間の就業体験  
【愛知工業大学附属中学校】

看護体験: 8月4名、幼稚園体験: 7月下旬～8月末 数名程度  
【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

職場体験: 3月、1年生410名、保育士体験: 夏休み2～3日間、2年生  
150名、保育実習体験: 6月、11月 学校近隣の保育園、3年生120名  
【桜花学園高等学校】

インターンシップ: 長野県昼神温泉施設 10月4名、大学学生食堂 12月  
2名、1月2名、職場体験: 幼稚園実習 3月38名 【菊華高等学校】

職場体験: 姉妹校幼稚園、8月、3日間、希望者5名 【享栄高等学校】

インターンシップ: 商業科第2学年で毎年実施(48名、県内19事業所、夏  
休み中、3日間) 【至学館高等学校】

1・2年生: 夏休みに家族などの身近な人の仕事先へジョブシャドウを行  
い、レポートにまとめ文化祭で展示。3年生: 5月下旬に2日間の職場体験  
を実施し、文化祭で発表。 【星槎名古屋中学校】

インターンシップ: 就職希望の2年生24名、採用募集のあるすべての企業  
に受け入れを依頼、26年度受入可能企業136社  
【大同大学大同高等学校】

総合・自己発見～卒業レポートインタビュー～: 中学3年生全生徒、各自  
で夏期休暇中にインタビューを実施 【東海中学・高等学校】

インターンシップ: 夏期休暇中、希望者1年生7名、2年生5名、事前・  
実習中・事後の指導、報告会(教職員向け、学年生徒向け)の実施。企業探  
究プログラム: 1年生商業科・美術科、学内インターンシップ・探究学習  
【東邦高等学校】

職場体験: 中学2年生、1日職場訪問、見学・体験実習  
【名古屋中学校・高等学校】

職場体験: 1日、男子部中2 200名、様々な職業の卒業生を含めた女性講  
師による授業: 警察庁・裁判所判事・建築士・医師・南極観測隊員・新聞記  
者等、1日に複数講座実施、女子部高1 200名 【南山高等学校・中学校】

企業訪問: 年1回、総合学科1年161名 【名城大学附属高等学校】

一日看護体験：8月、27名、私立幼稚園体験学習：8月、30名、インターンシップ：8月、製造業・銀行・介護施設・病院、16名

【愛知啓成高等学校】

インターンシップ：7月、4日間、年1回、普通科1年生130名、進路希望に応じて事業所（市役所、企業、保育所等38カ所）で職場体験

【愛知黎明高等学校】

ジュニアインターンシップ：夏季休業中、2～3日間、4企業に7名参加  
私立幼稚園体験学習：夏季休業中、2～3日間、9名参加、一日看護体験研修・臨床工学技師職場体験等：夏季休業中、13名参加

【修文女子高等学校】

職場体験：普通科進学総合コース・看護福祉プログラムの生徒、7月～8月、幼稚園体験実習（34名）、看護師体験実習（34名）、福祉施設体験実習（34名）、普通救命講習（22名）

【清林館高等学校】

職場体験：中3全員、8月、2日間、協力事業所80ヶ所を実施

【聖霊高等学校・中学校】

職場体験：一日看護体験研修・私立幼稚園体験学習（希望者）、企業見学会（機械電気システム科）

【中部大学第一高等学校】

職場訪問：10月、1年次200名、進路志望に合わせ約40班に分かれ、事前学習後、進路希望にあった企業を訪問。研修ノートにまとめて報告。

【春日丘高等学校】

職場体験・インターンシップ：職業学科生徒中心、8月、希望者50名程度

【愛知産業大学三河高等学校】

職場体験：幼稚園体験・看護体験、夏休み中、32名参加

【岡崎城西高等学校】

インターンシップ：夏休み3～5日間、25名、16企業

企業探究プログラム：10月～3月、総合1単位、31名、企業6社

【桜丘高等学校】

職場体験：看護体験5名、サマーサイエンスキャンプ6名、保育体験3名、インターンシップ9名

【豊川高等学校】

インターンシップ：10名、11～12月事前学習、12月の3日間に6企業で実施、1月事後学習、3名が1・2年生の前で報告

【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成27年6月）

## テーマ5 「産業教育の充実」

### 背景(課題)

本県は、製造品出荷額等が昭和52年以来37年連続して全国1位を誇るものづくり立県であり、高等学校における産業教育等を通して、これまで幅広い分野で産業・社会を担う人材を輩出してきた。

しかし、科学技術の進歩等による技術の高度化や社会経済・産業的環境の国際化が急速に進展している現在においては、時代の変化に適切に対応しながら本県の産業を支えていくことのできる人材の育成を図るために、産業教育の充実を計画的に進めていかなければならない。

### 関連する施策の実施状況

#### ・「あいちさんフェスタ」の開催

愛知の専門高校生等（農業・工業・商業・水産・家庭・福祉・総合学科・特別支援学校）の活躍を幅広く紹介することを通して、将来の産業を担う「スペシャリスト」の育成と産業教育の一層の振興、発展を目指すとともに、県民に対して産業教育への正しい理解を図ることをねらいとして開催した。



	《あいちさんフェスタ in 刈谷》	《あいちさんフェスタ in 一宮》
日	時：平成26年11月1日(土)	平成26年11月22日(土)
場	所：刈谷市産業振興センター	尾張一宮駅前ビル
来場者数	延べ1,653人	延べ2,890人
参加校数	12校	16校

#### ・キャリア教育推進事業（地域ものづくりスキルアップ講座）の実施

今後の地域産業界を担う人材の育成を目指し、工業高校の教育課程に地域の企業との連携プログラムを組み込み、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能を習得する講座を実施した。

#### ・「愛知県立愛知総合工科高等学校」の開設準備

本県の工業教育の中核となる「愛知県立愛知総合工科高等学校」（本科3年、専攻科2年、場所：名古屋市千種区）の平成28年4月開校に向け準備を進めている。

この専攻科の教育活動（インターンシップ、デュアルシステム、講師派遣等）を支援してもらう事業所等を「あいちT&Eサポーターズ」として募集しており、県内のものづくり企業や大学等を訪問し、登録を依頼した。

また、専攻科の運営に当たって、民間の技術力や専門性を学校教育に取り入れるため、民間事業者にその運営を包括的に委託する、いわゆる「公設民営化」を愛知県として目指すこととなり、国の国家戦略特区に提案した。

### 取組の成果

「あいちさんフェスタ」では、農業、工業、商業、水産、家庭、福祉学科を設置する高校、総合学科高校や特別支援学校で産業教育について学ぶ高校生が、日頃の学習成果の発表を通して、課題を探求し解決する力や自ら考え行動し適応していく力、コミュニケーション力など、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる力を高めるとともに、将来のスペシャリストとしての自覚と専門分野を学ぶことの誇りを醸成することができた。

また、本県が誇るものづくりの総合力等、日頃の学習で身に付けた知識・技術のすばらしさを紹介することで、本県の産業教育の取組について、県民に広く周知することができた。

### 課題

- ・ 今回の「あいちさんフェスタ」の成果を一過性のものとせず、今後も引き続き本県の産業を担う人材の育成につなげていくために、各地域の産業団体や市町村との連携・強化を一層推進し、地域のイベント等への参加を含めて、生徒の発表の場を積極的に設ける必要がある。
- ・ 地域ものづくりスキルアップ講座の協力企業からは、参加した生徒の基本的な知識・技術及び技能の不足を指摘する回答があることから、社会的・職業的自立に向けて必要な、基盤となる能力や態度の育成がさらに求められている（図表1）。
- ・ 専門分野に関する知識、技術及び技能を育成するためには、施設・設備の充実が必要であるが、県立の専門学科等の産業教育施設・設備は、老朽化したものや陳腐化したものも多くあることから、施設・設備の更新・充実を図っていく必要がある。

【図表1：協力企業アンケート結果】

生徒は研修に基本的な知識・技能をもっていたか。	
十分もっていた	25%
まあまあもっていた	50%
やや不足していた	21%
まったく不足していた	2%
その他	2%

### 今後の方向性

#### 短期的に取り組むこと

- ・ 平成26年度の成果を踏まえ、今後も各地区において、地域に密着した形で、「あいちさんフェスタ」を開催する。
- ・ 愛知総合工科高等学校の開校に向け、万全の準備を進める。

#### 長期的に取り組むこと

- ・ 中・長期的な視点に立った産業教育施設・設備の整備計画を策定し、計画的な更新・整備を図っていく。
- ・ 各地域の産業団体や市町村との連携・協力を一層推進し、生徒の発表の場を積極的に設けるなど、体験的な活動を充実させる。

（関係課室：高等学校教育課）

先端科学技術入門：科学技術科・情報科学科 1 年生、週 2 時間の授業を実施。  
大学での研究だけでなく各企業での最先端の研究や取り組みなどを学ぶ。

【愛知工業大学名電高等学校】

工場見学：3 月、中学 2 年生 123 名、クラス単位で企業 3 か所を見学

【愛知工業大学附属中学校】

各種検定への積極的な挑戦：合格実績

全商簿記実務検定：1 級 2 名 2 級 49 名 3 級 84 名

全商ビジネス文書実務検定：1 級 8 名 2 級 62 名 3 級 123 名

全商情報処理検定：2 級 25 名 3 級 114 名

全商珠算電卓実務検定：1 級 57 名 2 級 76 名 3 級 97 名

日検情報処理検定：日本語ワープロ 準 2 級以上 26 名 3 級 64 名

文書デザイン：2 級以上 35 名 3 級 72 名

表計算：2 級 38 名 3 級 20 名

【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

卒業生による講話：総合学習、3 月、1 年生 410 名

産業界で活躍する卒業生の徳育講話：年 6～7 回、朝 ST、全生徒 1,200 名

【桜花学園高等学校】

フォークリフト講習（8 月、希望者 53 名）、技術顕彰（88 名）、ジュニアマイスター顕彰（1 名）、IT パスポート試験（1 名合格）【享栄高等学校】

土曜授業「宇宙科学ゼミ」で、特定非営利活動法人・企業の指導の下、模型、溶接等の技術を学び、ロケットを制作、打ち上げを実施。

【星槎名古屋中学校】

工業科：2 年次よりコース制を導入し専門性の高い教育を実施

【大同大学大同高等学校】

SSH・SGH 事業：産学連携により研究発表集会やフィールドワークを実施。

SSH 東海地区フェスタ：7 月 約 800 名

【名城大学附属高等学校】

特別授業：中部経済同友会より実社会で活躍する経済人を講師として招聘

【愛知啓成高等学校】

看護教育：全日制看護科（平成 25 年度設置）、昼間定時制衛生看護科（設置 48 年目）で、正看護師、准看護師を養成、地域医療を担う人材を育成

TOEIC 受験の推奨：年 6 回、700 点以上取得者 29 名 【清林館高等学校】

資格取得：アーク溶接技能検定・旋盤技能検定等の受験、ボイラー取扱技能講習の実施（機械電気システム科） 【中部大学第一高等学校】

資格取得の奨励：電気科（電験 3 種・電気工事士）、情報処理科（国家試験・日商・全商の検定など）、表彰制度 【愛知産業大学三河高等学校】

企業見学：1 日、2 年生 100 名

職業体験講座：半日、2 年生 400 名、産業界で活躍する卒業生を講師として招聘、進路講演：講師（会社社長）、1 年生 400 名・保護者

【桜丘高等学校】

資格取得：情報処理検定（希望者）、ビジネス文書実務検定（32 名合格）

【豊川高等学校】

資格取得：家政科で家庭科技術検定 3 種の取得に挑戦

（26 年度実績）

被服製作（洋服）1 級合格者 7 名

被服製作（和服）1 級合格者 8 名

食物調理 1 級合格者 6 名

三冠王（1 級 3 種合格者）4 名

【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成 27 年 6 月）

## テーマ6 「グローバル化への対応」

### 背景(課題)

経済のグローバル化が進展する中、次代を担う子どもたちには世界的視野に立って、主体的に行動するために必要な態度や知識、国際共通語である英語等によるコミュニケーション能力等を育てていくことが求められている。

とりわけ、多くの外国人が居住する本県の状況を踏まえ、多文化共生社会で求められる強い精神力や、自分とは異なる歴史や文化に立脚する他者に対して共感する力、さらに、自国の歴史や文化に対する理解を深め、対外的に情報発信できる能力などが不可欠となっている。

また、本県は、日本語指導を必要とする外国人児童生徒数が6,373人と全国で最も多く、外国人児童生徒教育の充実を図ることが喫緊の課題となっている。

### 関連する施策の実施状況

#### ・ あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業

英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指して、英語教育の拠点となるハブスクールを県内12の地区ごとに指定し、ハブスクールを中心に各地区で、大学教授等の指導の下、英語の授業の進め方や評価方法の改善を目的とした研究に取り組んだ。また、各地区で高校と近隣の小・中学校とが、事業の成果を共有するために連携協議会等を開き、研修を行った。

#### ・ イングリッシュキャンプ in あいち

さまざまな国の人たちとオールイングリッシュの共同生活を送るイングリッシュキャンプを夏季に2回と冬季に1回開催し、英語に対する自信と興味・関心を高めるとともに、異文化体験を通して相互理解の大切さを学んだ。



【イングリッシュキャンプ in あいち】

#### ・ 高校生海外チャレンジ促進事業

県立高等学校に在籍する生徒が主体的にチャレンジする海外における短期留学、海外ボランティア活動、海外インターンシップ等の活動を実現するための費用を助成した。

#### ・ 私立学校における取組

姉妹校等との交換留学の実施や海外語学研修、ネイティブの教員によるオールイングリッシュの授業の実施など、グローバル人材を育成するための取組が積極的に行われている。

### ・外国人児童生徒への日本語教育

外国人児童生徒の多い学校を中心に日本語指導を行う加配教員を配置するとともに、教育事務所に語学相談員を配置し、指導体制の充実を図った。

また、「外国人児童生徒教育連絡協議会」(対象：市町村教委の担当指導主事)や「外国人児童生徒教育講座」(対象：日本語指導担当教員)により、教員の指導力の向上を図った。

#### 【日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況】(平成26年度、人)

	ポルトガル語	フィリピン語	スペイン語	中国語	韓国・朝鮮語	英語	ベトナム語	その他	計
愛知県	3,044 (36.5%)	1,305 (25.3%)	808 (22.6%)	706 (11.0%)	101 (16.4%)	96 (12.4%)	65 (5.3%)	248 (8.0%)	6,373 (21.8%)
全国	8,340	5,153	3,576	6,410	614	777	1,215	3,113	29,198

%は、全国の外国人児童生徒数に占める本県の比率

### 取組の成果

- ・ ハブスクール事業では、研究授業や研究協議を通して「英語で行う授業」についての理解が深まり、ペア・ワークやグループ・ワークの進め方、ワークシートの活用方法などについてのアイデアや先進校における評価方法の取組について、情報を共有することができた。
- ・ イングリッシュキャンプでは、英語劇の発表を行った。昔話をモチーフとした発表を考える作業を全て英語で行うことで、英語のスキルアップに加え、コミュニケーションに対する積極的な態度を身に付けることができた。
- ・ 海外チャレンジでは、生徒の報告書から本事業が英語によるコミュニケーション能力や異文化への興味・関心を高めることができたことがうかがわれる。
- ・ 日本語教育適応学級担当教員については、学校ごとの日本語教育を必要とする児童生徒数を把握するとともに、その数に応じた担当教員を配置することにより、日本語教育の必要な外国人児童生徒に対する教育の充実を図ることができた。
- ・ 県立高等学校では、日本語指導を必要とする外国人生徒等への支援を行うため、外国人生徒教育支援員延べ59人を23校に配置した。
- ・ 語学相談員(ポルトガル語4名、スペイン語2名)が県内の小・中学校へ延べ1,068回訪問し、外国人児童生徒への支援を行った。学校からは「語学相談員の訪問により、児童生徒やその保護者と教員との意思疎通がスムーズになる。」「母語による生活適応相談により、児童生徒の不安を減少させることができる。」という声があがっている。
- ・ 「外国人児童生徒教育連絡協議会」や「外国人児童生徒教育講座」で、平成26年4月から制度化された『特別の教育課程』による日本語指導の在り方をテーマに研修を行った。各市町村での取組について協議をすることで、より

よい指導方法について理解を深める「特別の教育課程」による日本語指導を推進するための契機とすることができた。

## 課 題

- ・ ハブスクール事業では、生徒による言語活動を充実させ、4技能を効果的に育成するにはまだ工夫が必要である。また、学習到達目標の達成を評価するための方法にも、パフォーマンステストの導入等、客観性や妥当性の観点から改善の余地が見られる。事業成果の共有については、地区により取組の程度に差がある。教員の英語指導力の向上は今後も重要な課題である。
- ・ イングリッシュキャンプは、英語による活動がより高度な言語活動を含んだ内容となるような工夫が必要である。
- ・ 海外チャレンジ事業は、応募者によってチャレンジの内容や取組状況に大きな差が見られる。
- ・ 本県における日本語指導が必要な外国人児童生徒数は近年増加傾向にあることから、きめ細かな学習及び学校生活適応の支援を充実させるため、日本語指導を行う加配教員の増員、外国人生徒教育支援員の配置拡充のほか、日本語指導を必要とする外国人生徒の学びの場を整備することが課題となっている。
- ・ 語学相談員の学校訪問は、学校や市町村からの希望をもとに行っているが、日本語指導が必要な外国人児童生徒の県内地域への散在化が進んでおり、訪問できる回数に限りがあり、希望に沿えない状況である。
- ・ 「特別の教育課程」による日本語指導は、市町村や学校によって取組に差があり、定着できていない状況である。今後、「外国人児童生徒教育連絡協議会」及び「外国人児童生徒教育講座」において、さらに日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる教員の指導力向上を目指した研修内容を充実し、定着を図っていく必要がある。

## 今後の方向性

短期的に取り組むこと

- ・ ハブスクール事業の取組としては、国の英語中央リーダー研修に派遣した英語教育推進者を講師とした英語教育指導者研修を平成27年度から複数年にわたり実施するとともに、高校と小・中学校との連携が一層深まるよう、働きかけていく。また、ハブスクール12校にALTを常駐させ、生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、ALTを活用した評価方法の研究などの、各校での取組の成果を普及・還元することにより、県全体の英語力の向上を促進する。

- ・ イングリッシュキャンプは、即興的なやりとりがより一層頻繁に行われるように活動内容を見直し、発表や討論を導入・充実する。
- ・ 海外チャレンジは、募集に向けて、過去の優れた取組事例を広く紹介する。
- ・ 平成27年度は、教員の英語力の向上を図るため、オーストラリアのビクトリア州との教員交換（派遣・受け入れ各6人）、英語教員のビクトリア州立大学付属語学校への派遣（派遣6人）を行う。
- ・ 東南アジアでの専門高校生海外インターンシップ（工業：シンガポール、商業：マレーシア、各生徒4人、教員1人）を行う。
- ・ 日本語指導を必要とする外国人生徒等を対象とした特別な入学者選抜の実施校を拡大する。
- ・ 日本語指導を必要とする児童生徒の増加に応じて、加配教員の増員を図っていく。
- ・ 平成27年度は語学相談員を増員し、ポルトガル語4名、スペイン語5名、フィリピン語2名とする。独自に語学相談員を配置していない市町村を中心に訪問を行い、その地区の外国人児童生徒を定期的に支援することができるようにする。
- ・ 研修では、「教育課程研究集会 外国人児童生徒教育部会」を新設し、「特別的教育課程」による日本語指導のさらなる推進を図るとともに、日本語指導担当教員の指導力の向上を図っていく。

#### 長期的に取り組むこと

- ・ 英語など語学力の向上はもとより、異文化を受け入れる精神性や、異文化の中でたくましく生き抜く力、自国の文化を理解したうえで対等に語り合うことのできる力を身に付けた人材の育成に向け、継続して取り組んでいく。
- ・ きめ細かな学習指導及び学校生活への支援を行うため、外国人生徒教育支援員の配置拡充に取り組んでいく。
- ・ 外国人児童生徒の日本の学校生活への適応、学力向上を図り、愛知の次代を担う人材として育成するため、継続して取り組んで行く。

（関係課室：財務施設課、高等学校教育課、義務教育課）

～ 私立中学校・高等学校におけるグローバル化への対応の取組事例から ～

夏期休暇を活用したアメリカ、オーストラリアへの海外研修、海外からの留学生の積極的な受入  
【愛知高等学校・中学校】

カナダのサレーを中心に語学研修及び異文化体験（15日間程度、20名程度の希望生徒）  
【愛知工業大学名電高等学校】

オーストラリア・メルボルンでホームステイ（15日間程度、25名）英会話を、年間を通してクラスを半分に分け、少人数で実施  
【愛知工業大学附属中学校】

オーストラリアへの修学旅行（1月中旬5泊6日）英語検定への受検推奨（年間3回、のべ81名が受検）  
【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】

異文化理解講話、台湾・オーストラリアの姉妹校との交流（希望者40名） 【桜花学園高等学校】

ニュージーランドのネイピア・コレンソに2名長期留学（2014年1月～12月） 【菊華高等学校】

海外語学研修（オーストラリアでのホームステイ、6月下旬から3週間）ネイティブ講師による英語授業、韓国への修学旅行（11月初旬に5日間）  
【享栄高等学校】

高校における、総合的な学習の時間「Dignity」、地歴公民科と英語科の合科科目「World Studies」、英語科選択科目「Culture」の実施  
【金城学院中学校・高等学校】

普通科留学コースでニュージーランド留学（1年次後半、約1年間） 【至学館高等学校】

27年度のハワイ研修に向け、土曜ゼミ講座「必ずしゃべれる英会話」で外部講師による英会話学習、ハワイの自然活動から地球の自然について学ぶ学習を実施。文化祭で海外研修の経験等を発表。  
【星槎名古屋中学校】

オーストラリアへの海外語学研修（21日間、希望者10名） 【大同大学大同高等学校】

外国人講師による英会話授業、中3・高1対象の海外研修（ニュージーランド、スコットランド、アイランド）中1・2対象の「アメリカンキャンプ」  
【東海中学・高等学校】

中国とオーストラリアの姉妹校の留学生受入、タイ・台湾の高校生訪問団の受入、韓国高校校長訪問団の受入、ニュージーランドでの夏期英語研修、美術科修学旅行でパリ訪問（ユネスコ本部で講話を聴く）  
【東邦高等学校】

メントーン・グラマースクール（オーストラリア）との交換留学（1年間）、イギリス、アメリカ、オーストラリアでの語学研修（夏休み・春休みに2～3週間）、中学での全校あげてのレシテーションコンテスト、留学生の長期短期受入  
【名古屋中学校・高等学校】

異文化理解として外国の学校（フィリピン、インドネシア、シンガポール、フランス）の訪問の受入、交流（6校、のべ129名参加）。ネイティブファカルティ（10名）在籍。中学3年生：語学研修（ロンドン・パリ）。高校2年生：国際理解研修及び語学研修（ニュージーランド・カナダ・アメリカ・フィリピン）。国際理解講演会（スウェーデン大使館広報文化担当官）の開催。国際バカロレア・ディプロマプログラム導入に伴い、Pre IBDPの開講。（25名参加）  
【名古屋国際中学校・高等学校】

オーストラリア、イタリア、イギリスへの海外研修（2・3週間）、研修旅行（1週間、男子部・女子部の高1、延115名参加）  
【南山高等学校・中学校】

「英会話」・「科学英語」においてALTを交えた英語による論文作成・研究発表指導、「SS」  
「多文化共生」において国際理解教育を実施、海外修学旅行（ニュージーランド、ハワイ、台湾）オーストラリア研修の他にグローバルサロンを年7回実施  
【名城大学附属高等学校】

海外修学旅行（カナダ、ニュージーランド、シンガポール・マレーシア）、語学研修（オース

オーストラリア、イギリス)、短期留学(カナダ、ニュージーランド)、ロータリークラブ主催プログラムによる留学と来日留学生の受入(フランス、カナダ)、サウジアラビア王国特命全権大使の講演、愛知教育大学日本語履修留学生による模擬授業参加

【愛知啓成高等学校】

海外友好校からの学校訪問・ホームステイ受入による授業、自主活動、地域交流等の実施。アメリカ語学研修旅行(高2・8名)。グローバルな視点を身につけ、異文化を探究し、自他の尊厳を学ぶ「国際探究」を学校設定科目として設置。【愛知黎明高等学校】

姉妹校であるニュージーランドのダニバーク高校との間で、代表生徒と教員の訪問、交流。ホームステイでの異文化体験とともに、全校集会での歓迎レセプション、授業への参加、生徒主催の歓迎パーティ等を実施

【栄徳高等学校】

オーストラリア短期留学(1年英語コース全員)、インド体験学習(希望者11名)、アイルランド語学研修(2年希望者9名)実施

【聖カピタニオ女子高等学校】

2回の国際理解教室(ブータンの保健事情、インドネシア・ネパール・ミャンマーからの留学生を迎えて)に1年生のべ48名が参加、2回の英語講座(英会話力を上げる方法を英語で学ぼう、オーストラリア英語や文化を英語で学ぼう)に延44名が参加

【星城中学校】

オーストラリア語学研修(92名参加)、留学(1年間・55名)、海外姉妹校との交流(交換留学、相互訪問)、海外修学旅行(台湾姉妹校訪問等)、英語検定の上位級取得(1級7名、準1級26名等)、放課後を活用した外国人教師による英会話授業

【清林館高等学校】

中1の発音から高3の時事英語まで6年間一貫の英語教育を継続、オーストラリアのマウント・セント・ジョセフ校との生徒・教員の相互訪問、中2から高1までネイティブ教員による会話指導

【聖霊高等学校・中学校】

総合的な学習の時間における「異文化理解」(2年希望者)、海外修学旅行(2年希望者)、英語検定受検(1年生普通科全員)

【中部大学第一高等学校】

ユネスコスクールとしてシンガポール、オーストラリアへの研修旅行を基に異文化理解を促進

【春日丘高等学校】

1年生にALTを導入したチーム・ティーチング、毎年留学生を受入、2週間のオーストラリア留学(夏休み)

【岡崎城西高等学校】

春休みを利用した短期留学(ホープウェル、レイクノーマン)及び交換留学の受入、英語のグレード別授業、ネイティブ教員の充実、リベラルアーツの導入

【南山国際高等学校・中学校】

英語検定への1・2年生全員受検、国際体験デーを年5回実施、ニュージーランド1年留学(5名)、短期ステイ(30名)、南京大学附属中学語学研修(10名)と同校来日(年4回)、オーストラリア語学研修1か月(10名)、フィリピンマングローブ植樹(1年15名)

【桜丘高等学校】

英語検定を全校対象で約150名受検、カナダ研修に4名参加、インターアクトクラブ員2名がオーストラリア研修に参加、修学旅行に41名参加(イギリス・ロンドン)

【豊川高等学校】

金曜日の朝にNHKワールドニュースを視聴、昼休みに英語の音楽を流す取組、文化祭で豊橋技術科学大学の留学生を呼んで英語で遊ぶクラス企画を実施

【豊橋中央高等学校】

(愛知県私学協会とりまとめ 平成27年6月)

## 効果指標の達成状況

指標：キャリア教育の年間指導計画を作成している学校の割合(小・中学校)

目標：100%(平成27年度)

### 【平成26年度の状況】

小・中学校ともに、前年度を上回った。

各市町村教育委員会を通じ各学校へ年間指導計画の作成を働きかけてきた結果、小・中学校ともに作成率が向上した。作成予定の学校も含めると、小学校は90%を超え、中学校ではほぼ100%という状況となった。

#### 本県実施調査の結果

区分	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	48.6%	54.2%	81.7%	
中学校	81.3%	78.3%	98.6%	

は、目標を達成している項目である。

指標：インターンシップ等を実施する全日制県立高等学校の割合

目標：100%(平成27年度)

### 【平成26年度の状況】

前年度に引き続き目標を達成した。

今後は、就業体験から学習意欲の向上につなげることができるようインターンシップ等実施の充実に努める。特に、普通科高校における取組を強化するため、受け入れ事業所の負担が比較的軽いジョブシャドウイングの取組を推進していく。

#### 本県実施調査の結果

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実施率	73.2%	96.0%	100%	100%	100%	100%	

は、目標を達成している項目である。

指標：特別支援学校高等部卒業者の一般就労の就職率

目標：50%(平成27年度)

#### 【平成26年度の状況】

前年度と比べて1.4%の減となっている。

知的障害特別支援学校高等部卒業者の就職率の向上のためには、職業教育の充実強化を図るとともに、職域の拡大を図っていく必要がある。平成27年度には、地域企業と連携して職業教育の充実強化に取り組むとともに、専門的に就労支援に従事する就労アドバイザー2名を配置し、就職先・実習先の開拓や定着支援、さらには関係諸機関との連携強化を図っていく。

特別支援学校の幼児児童生徒の実態調査の結果

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
就職率	38.4%	36.7%	37.7%	39.6%	38.1%	36.7%	

は、目標を達成している項目である。

指標：あいち夢はぐくみサポーターの登録数

目標：前年度に比べて増加する。(毎年度)

#### 【平成26年度の状況】

幅広い業種から、多数の事業所の協力を得ることができ、目標を達成することができた。

今後も、登録事業所の充実を図り、学校のキャリア教育が円滑に実施できる体制を整えていく。

あいち夢はぐくみサポーターの登録事業所数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
登録数		23 事業所	349 事業所	814 事業所	1,241 事業所	

は、目標を達成している項目である。

指標：全国学力・学習状況調査で「勤労観・職業観」に関する項目に肯定的に答えた児童生徒数の割合（小・中学校）

目標：全ての項目で全国平均を上回る。（毎年度）

### 【平成26年度の状況】

小・中学校ともに、目標を下回っている。

キャリア教育のねらいに該当する「自律的な生き方」や「勤労観」に関する調査項目の経年比較を見ると、全国の回答状況と似たラインを描くものの、多くの項目において全国を下回る結果が出ている。

今後も、児童生徒の「勤労観・職業観」が高められるように、家庭・地域との連携を大事にし、小・中学校でのキャリア教育のさらなる充実を図っていく。

#### 全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本県	86.3%		86.2%	87.4%	86.2%	
	全国	86.8%		86.7%	87.7%	86.7%	
家の手伝いをしていますか。	本県	78.9%		79.9%	80.0%		
	全国	80.2%		80.7%	80.5%		

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本県	70.0%		71.5%	70.8%	68.8%	
	全国	71.7%		73.2%	73.5%	71.4%	
家の手伝いをしていますか。	本県	62.4%		65.1%	62.0%		
	全国	64.8%		66.0%	64.5%		

は、目標を達成している項目である。

平成23年度は東日本大震災の影響により「全国学力・学習状況調査」は見送りとなった。

#### < 参考資料 >

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	本県	93.1%		94.4%	93.7%	93.9%	
	全国	93.4%		94.7%	93.6%	94.0%	

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	本県	91.5%		93.9%	92.7%	93.8%	
	全国	92.1%		93.9%	93.3%	94.0%	